

②中学校における学習指導案例

中学校 第 学年 技術・家庭科 学習指導案

- 1 題材名 私住まいのコーディネーター 「A 生活の自立と衣食住 (4) イ」
小題材名 「安全で快適な住まい方の工夫」

2 題材について

(1) 生徒観

子どもから大人への心身の変化が著しい中学生期は、周りの干渉から遠ざかろうと、自分の部屋にいる時間が長くなったり、学校生活の様子を詳しく話さなくなったりする時期である。小学生の頃は居間などで家族と一緒に過ごすことが多かった生徒も、中学生になると、自分一人または友だちという時間が長くなっていく。

住まいについて自分の部屋を飾る物や室内の収納には関心があっても、家族みんなが使う場所については、家族任せである場合がほとんどである。しかし 大人以上の体力、能力が育ってきている中学生は、いざというときには機転が利き、頼りになる活躍ができるものである。それが日常生活に結びついて、自分のやったことが家族の役に立ち、周囲からも認められたときは、喜びや充実感を感じ、自分に自信がもてることにつながる。家族の一員として、たとえ小さなことでも積極的に働きかけをしていこうという意欲を養っていきたい。

(2) 題材観

近年の住宅は、耐震、免震について研究されたものや防犯対策を備えたものが多く、住宅の安全に対する関心の高さが伺える。さらに、アスベストによる健康被害や一酸化炭素中毒、エレベーター事故などの教訓から、安全管理の重要性も指摘されてきている。

昔から住まいは外敵や厳しい自然条件など危険から身を守るところであった。安全の上に団らんがあってこそ心の安らぎが得られる住まいとなる。だが、中学生にとって「家」は自分が働きかけをしなくてもそこにあって、毎日の生活が成り立っているところである。住居について積極的に考えようとする生徒は少ない。

しかし、災害や事故の被害を考えると、危険箇所の点検、日頃の安全対策や安全管理等、家族みんなで行き届く必要性は明らかである。家族が安心して暮らせる快適な住まいは、建物の構造や施設・設備だけに求めるものではなく、家族で住まい方を工夫してつくっていくものであることに気付かせたい。そのため、具体的なことを想定して、安全な住まい方の工夫を考えさせる本題材を設定した。

(3) 指導観

「衣食住」の中でも「住」については、具体的な体験を通して指導することが難しい部分である。実際の住居を使っただけの学習は容易にできることではないし、中学生が現在の住まいを大きく変えることも困難である。

しかし、住まいは毎日の生活の基盤となる場所であり、住まい方はそこで生活する家族の心身の健康や家族関係にも大きく影響する。住まいを建物としてとらえるのではなく、家族のさまざまな気持ちや行動があらわれる生活の場としてとらえさせたい。そして、住まいについて受け身ではなく、自分たちにもできることがたくさんあることに気付かせていきたい。

ここでは、安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができることをねらいとしている。安全に関する内容として、小学校では課題学習を中心に「身の回りの整理整頓」を学んでいる。中学校では、自分だけでなく、幼児や高齢者を含めた家族にとっての安全で快適な室

内環境を考えさせる。「気温、湿度、換気」や「家庭内の事故の種類と原因」など具体例をあげて指導することで、自分の住まいを見直すきっかけになると思われる。また、家族の一人一人に視点を当てて、それぞれにとっての危険箇所に気づき、事故の防ぎ方や安全管理について現在や将来の生活実践に役立つ方法を考えられるよう指導していきたい。

3 題材の目標

安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができるようにする。

4 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
家族の生活の場としての住まいや安全について関心をもって取り組んでいる。	快適で安全な住まい方や整え方について考え、工夫している。	住まいの課題実験を行うことができる。 汚れや材質に応じた住まいの手入れができる。	住まいの機能や快適で安全な住まい方・整え方について理解している。

5 題材の指導計画・評価計画（7時間扱い）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 工：工夫・創造 技：技能 知：知識・理解

小題材	時間	学習内容	主な学習活動	評価規準
家族と住まい	1	○住居の機能	○住まいの働きを知ろう ・自分の生活を振り返り、住まいの役割について考える。	知：住居の基本的な機能について理解している。 (ペーパーテスト)
		○家族の生活と住まい方	○住まいへの願いを確かめよう ・住宅の広告を持ち寄り、家族と住まいについて考える。 (いろいろな家族構成を示し考えさせる) ○住まい方のルールを考えよう ・自分の家や共同住宅・地域の住まい方のルールを考え、話し合う。	関：家族の生活の場としての住まいに関心をもっている。 (観察) 工：家族が住みよい住まい・地域にするためのルールについて考え、工夫している。 (ワークシート・発表)
安全で快適に住まう	2	○快適な室内環境	○住まいの健康診断をしよう 【課題別実験学習】 ①空気調節 ②通風、換気 ③騒音 ・健康診断チェックリストをもとに、自分の家の住まいの健康度を調べる。	技：手順通りに課題実験を行うことができる。(観察) ○室内の空気調整 【温度・湿度・気流】 ○通風、換気 ○騒音防止 ○自然・施設・設備の利用
			・診断結果をもとにグループに分かれ、課題別実験を行い快適な室内環境についてまとめる。	知：室内環境を整えることの必要性に気づき、快適な室内環境の整備に関する具体的な方法を理解して

		<ul style="list-style-type: none"> ・照明やエアコンの使い方などによる地球温暖化やエネルギー問題について考える。 	<p>いる。 (ワークシート)</p> <p>関:衛生的な室内の整備に関心をもち、実践しようとしている。 (観察)</p>
4	○衛生的な室内環境の整備	○住まいの汚れを観察しよう	<p>知:用具や溶剤の安全で適切な取り扱いについて理解している。 (ペーパーテスト)</p> <p>技:清掃の実習を通して汚れや材質に応じた住まいの手入れが安全にできる。 (観察・ワークシート)</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住まいの汚れ調査をし、結果をもとに、汚れやすい箇所を見つけ出す。 ・代表的な汚れの落とし方を実習する。 ・汚れと洗剤の関係、住宅用洗剤の使い方・安全性について考える。 	
6	○室内の安全	○住まいの安全対策を考えよう	<p>関:シルバー体験・幼児体験に積極的に取り組んでいる。 (観察)</p> <p>工:高齢者や幼児にとって安全で快適な室内環境の整え方と住まい方、安全対策について考え、工夫している。 (発表・ワークシート)</p>
7		○自分の家の地震対策を考えよう	
本時		<ul style="list-style-type: none"> ・家族それぞれの立場で、住まいの中の危険な場所について考える。 (シルバー体験・幼児体験) ・自分の住まいでできる安全対策について考える。 	